

自己点検・自己評価報告書（令和4年度）

学校法人瓶井学園 日本メディカル福祉専門学校
こども福祉学科（通学2年課程）
令和5年4月1日作成

1 学校の教育目標

こどもにとって重要な乳幼児期に関わる専門職として、保育の現場で必要となる専門知識・技術を持ち、こどもの気持ちに寄り添いながら、こどもを取り巻く種々の環境を調整するための的確な判断と対応ができる優れた保育士を育成する。

また、少子化が進み、家庭や地域での子育て力の低下が指摘され、こどもだけでなく保護者に対しても個々の状況に応じた支援が求められているなか、社会福祉士国家資格や幼稚園教諭免許状を併せて取得し、ソーシャルワークのスキルを持った保育士として専門的かつ実践的に対象者に関わっていくことのできる人材を育成する。

2 令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 保育に携わるものとして求められるコミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) 有識者や保育現場等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技術修得を目指し、保育士（専門職）としての価値観を身に付ける為、授業内容を充実させる。
- (3) With コロナにおける授業形態の工夫や授業内容の変更などを行う。
- (4) 全職員が一人でも多くの入学生を確保するための広報活動に積極的に取り組む。
具体的にはオープンキャンパスにおいて体験実習を行い、保育実践への理解と関心が深まるように工夫する。又、オンライン説明会も継続し、即応的かつ個別で相談が出来る体制づくりを整備する。
- (5) 卒業に向けた学生支援や進路指導の充実を図り、学生の希望が実現できるように情報収集と個別指導を徹底する。個別相談をベースに早期からの就職支援を希望する学生には、適宜情報提供等を実施していく。
- (6) 在校生・卒業生・保護者、実習先や地域社会に対し、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (7) ホームページやSNS 広報の充実を図る等して、本学科の認知度の向上に取り組む。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員が熟知し、折に触れ学生に伝えている。対外的にはホームページ、学校案内などに本校の教育方針と特色（アドミッション・ポリシーなど）を記載しており、概ね周知されている。
- ・令和4年度は保護者説明会（懇談会）の参加希望者が皆無であったこともあり、当科の教育理念や情勢に伴う内容に関して、保護者に理解を深めて頂く機会を設けることが出来ていない。
又、社会人経験のある学生については保護者の招致を控えている。
については、継続的に説明会（懇談会）の実施案内を行うことや他手段（書面配付など）を検討することが課題である。
- ・社会福祉士の受験資格取得を希望する者には、本校の社会福祉士（通信）科に在籍の上、国家試験合格に向けた授業展開（学校独自科目）を行っている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・定められた運営方針（事業計画）は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、学生の学内における様子なども取り入れながら、入学希望者、在校生、保護者などにとってわかりやすい内容とするため随時見直しを行ない、ホームページの更新やSNSを活用しての情報発信を行ってきた。ついては、今後も継続することが必要である。
- ・業務効率化を図る情報システム化については一定程度整備されているが、引き続き見直しが必要である。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはできているか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省が指定する保育士養成施設として、令和元年度入学生から新カリキュラムに則った教育を実施し、卒業生を輩出している。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により一部オンライン授業の併用や感染予防対策をとった上で、学科運営（対面授業や実技科目の実施など）を行った。
- ・保育士資格は卒業と同時に取得できる資格であり、国家資格取得がカリキュラム上で明確に目標として定められている。
- ・各科目の指導内容・方法等は所定のシラバスを作成し、講義概要として学生に配付している。各科目のシラバスでは、主に授業目標、授業内容及び担当教員名、成績評価基準などを明記している。

- ・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識・技能レベルが充足した教職員を確保できている。
- ・講師要件を備えた教員が学生の特性に配慮した授業を展開できるようにしている。特に実践力のある保育士養成を目指す演習科目については、複数名の教員を確保している。一方で関連分野（保育現場）の教授を通常授業だけではなく、特別講義のような形で実施することが課題である。
- ・単位認定や卒業要件を明示するとともに、各担当教員は厳密に成績評価を行い、判定会議を経て単位認定を行っている。
- ・大学卒以上の入学者には社会福祉士国家資格（受験資格）、幼稚園教諭1種免許状も併せて取得できるコースを設定しているが、トリプル資格取得希望者は皆無であった。
- ・高校卒以上の入学者には幼稚園教諭2種免許状を併せて取得できるコースを設定しており受講指導にあたってきたが、進路変更に伴い、併修を取りやめることとなった。
- ・オンライン研修を含め、研修会への積極的な参加を課題とし、複数名が出席の上、教授内容などに反映することが出来た。令和5年度も積極的な研修参加を継続する他、スキルアップを目指した国家資格などの取得奨励を課題としたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・求人の情報提供と共に面接指導等、就職に向けての個別指導を十分に行っている。
- ・例年、本校で取得できる免許や資格を活用して就職率100%を目指している。令和4年度も就職希望者全員が就職することが出来た。なお、アフターケアや就職定着支援については継続の課題である。
- ・社会福祉士資格取得率については国家試験の合格率上昇が課題である。学校独自の科目（時間数）を変更したこととの因果関係を一定期間経過後、検証し、今後の取り組みに活かしていく。
- ・令和4年度は退学者が皆無であった。
- ・同窓会委員会を設立する事を目標におき卒業生と連絡をとることを進めているが実現出来ていない。については、引き続き卒業生の情報発信ネットワーク構築に努力する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	

課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・学生自身が就職活動を積極的に行うことが出来るようにするため、各学生に応じた個別指導を実施している。
- ・就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、希望職種・希望施設への就職が実現できるように関わっている。
- ・雇用保険加入歴のある学生には「専門実践教育訓練費および教育訓練支援給付金」の利用を勧めている。
- ・平成28年度に創設され各都道府県社会福祉協議会が担当する「保育士修学資金」の利用を勧め、経済的に安定した学生生活を送れるように支援している。
- ・高等教育の修学支援制度の対象学科として、経済的な支援（学費サポート）制度を案内し、利用を進めている。
- ・学生が心身ともに健全な学生生活を送る為に、担任等が定期的に個人面談を行い、対人関係、学業などの悩みがある場合は積極的に対応してきた。又、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対応の為、職員による校舎入室時の体温や健康状態の把握及び指導を徹底してきた。
- ・学園の学生寮に入居している学生は生活環境の把握ができています。又、親元等から離れ、一人暮らしをしている学生についても生活環境を把握するように努め、状況に応じ、対応を行っている。
- ・学業成績不良者について学校生活や成績などで気になる点がある場合は直接指導を行う他、保護者にも定期的に連絡をとり、支援を行っている。
- ・卒業生からの転職、キャリアアップ等の相談には随時対応しているが、アウトリーチ的な支援を行っていないことが課題である。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
施設及び教育設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省指定カリキュラムに沿った施設・設備を整備している。
- ・保育実習は学生からの配属希望調査を行った上で配属先を決定している。年間予定の変更により、実習配属期間も変動したが、実習先の協力を得て効果的な実習（事前指導・巡回指導・事後指導を含む）を行うことが出来た。
- ・海外研修については、民間企業の研修ツアー等を紹介するにとどまっている。
- ・防災については、消防署による定期的な検査・点検を受け法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。なお、災害被害を想定した具体的な訓練・役割分担の見直しは今後の課題である。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1	
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全職員が適正な学生募集活動を行っている。
高校ガイダンスに学科職員が複数回出張し、保育士の魅力や当科の特徴を直接説明することが出来たことは学科内容の周知に繋がった。但し、学生獲得の成果に繋がっていない為、継続的に足を運び、当科の教育内容を数多くの方に知ってもらうことが必要である。
- ・学校案内においては、授業内容、資格の内容等を示しており、毎年適宜見直し・改良している。ホームページについては興味を引くような内容に適宜改良を進めている。より正確かつタイムリーに入学志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める余地がある。
- ・オンライン説明会を継続し、希望に応じ個別で対応している。但し、校舎案内（現状）を上手く伝えることが出来ていない点が課題である。
- ・幼稚園教諭1・2種免許状を併せて取得できるコースを継続運営し、実績を作ることが出来ている。なお、併修による保育教諭としての就職の幅の広がりなど、ダブル資格取得のメリットを広報していくことが課題である。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定されている。
- ・学園独自の奨学金（入学金全額免除・授業料一部減額）は、該当者全員が利用している。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い設置基準等の正しい理解に努め、運営を行っている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、職員教育を徹底している。
- ・個人ならびに学科としての自己点検・自己評価を実施し、昨年度の問題点の改善に取り組み、一定の成果を上げている。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行なった。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・ハロウィンの時期、近隣の企業型保育所ならびに当学園提携施設の子ども達に向け、三密に留意しながら、子どもたちとの交流を行った。
- ・社会福祉士科と連携し、地域の子どもたちを対象とした「のびのび学習室」でのボランティアに希望者が参加するなど活動を奨励している。
- ・両学年ともにボランティア活動を含め、日常生活においても対応できる「学生・生徒 24 時間共済」に加入し、課外活動支援に備えている。
- ・大阪府の待機児童解消施策として行われている職業訓練「長期高度人材育成コース（保育士養成コース）」の訓練生 8 名（令和 3 年度生）・15 名（令和 4 年度生）を受け入れた。本科生と共に、学びの相乗効果が得られるようにクラス運営を実施している。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切 3、 やや不適切…2、不適切 1	評価委員 確 認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・私費留学生の卒業校（日本語学校）への定期的な連絡などを行い、生活指導や広報活動を行っている。具体的には、留学生の当校での様子を伝えるなどの情報共有、留学生受入れのための情報提供なども実施している。
- ・カンボジアからの私費留学生（3名）が進級し、日本語能力向上のための日記指導を始め、日本語能力検定受験などの指導を実施してきた。但し、N1・N2合格の実績を作ることは出来なかった。生活・進路指導など丁寧に関わることは出来たが、他学科（日本語学科など）との交流や授業内容に関する学習会（予習・復習）などを実施出来なかった為、今後の検討課題としたい。

4 昨年の学校関係者評価委員会（委員からのご意見について）

教務運営として実施できたこと

(1) コミュニケーション能力

担任だけではなく、各教員が学生（以下、訓練生を含む）に積極的に声かけを行い、日々の状況把握に努めることが出来た。又、就職支援の一環として、学生同士の共同作業（グループワーク）により、企画準備・実施・振り返りを特に演習授業の中で行ない、個人だけではなく、他者と協力しながら進めていく授業を行ってきた。これは、アクティブラーニングの教育方法（問題解決型学習（PBL））実践の一端でもある。又、保育内容演習Ⅰ(言葉)などの授業において「読み聞かせ」を通じ、日本語能力や表現力の向上を目指した授業展開を行ってきた。については、達成感・満足感の獲得にも繋げることが出来た。

(2) 定期試験方法の在り方についての検討

オンラインでの実施を含め、実施方法の変更（課題提出）についてご意見を頂き、科目特性に応じた評価方法の再構築を実施している。具体的には、筆記試験以外の方法(レポート・課題提出・小試験)を含めた総合評価を実施した。

(3) 教員評価

学生による教員評価（各期のアンケート調査）を実施している。又、学科や各専任教員については自己評価の機会を設定し、定期的に達成度合や今後の課題について振替える機会を設けている。

(4) 専門的用語の理解

専門用語の理解に躓き、授業についていけない学生が出ないように、理解度を確認しながら応答的な授業形態を心がけることが出来た。

(5) 退学防止に関する取り組み

担任を始め、全教員が丁寧に関わり資格取得（卒業）に繋げることが出来た。又、考える力を付け、自己肯定感を高めることを意識した授業を展開することで、学びを支援することが出来た。

(6) 保護者との連携

子ども家庭支援論、子育て支援などにおいて子どもに対する保育を保護者とどのように共有し、実施していくことが出来るのかを教授し、実践での留意点などを考えることを意識した。

教務運営として実施できなかったこと

(1) 他専門職の配置：心理カウンセラーの配置などは行えていない。教務課の職員が兼務しており、専任教員内の役割分担が継続的な課題である。

(2) 定期試験方法の在り方についての検討：定期試験における筆記試験は従前の方法（対面試験）を継続した。オンラインにおける定期試験の実施は行っていないが、ピアノ弾き歌いなどの習得度合いをオンラインで確認することがあった為、状況に合わせた柔軟な対応は今後も継続的な課題としたい。

(3) 他校との差別化（定員の検討・広報の充実）：定員減や大学卒業者などに対する特待生制度の導入について検討を行っているが、実施には至っていない為、早急に確定することが課題である。

5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果（令和4年度の評価結果と令和5年度の目標や計画）

(1) 教育理念・目標

- ・学科の教育理念・目標を多くの方に知ってもらう為の実働が出来ていない。説明会などの開催に留まらず手段を考え、随時情報を発信していくことが継続的な課題である。

(2) 学校運営

- ・教育活動等に関する情報公開は学生の学内における様子なども取り入れながら、入学希望者、在校生、保護者などにとってわかりやすい内容とするため随時見直しを行ない、ホームページの更新やSNSを活用しての情報発信を行ってきた。については、今後も継続することが課題である。

(3) 教育活動

- ・対面授業を原則とした上で、一部オンライン授業併用や感染予防対策をとった上での学科運営（実技科目の実施など）を実施した。
- ・実践力のある保育士養成の為、演習科目（音楽）については継続して複数名の教員を確保し、個別指導の機会を充実させているが、保育現場との連携により特別講義のような形での授業運営は行っていない。については、職業実践校としての取り組みを実現することが課題である。
- ・オンライン研修を含め、研修会への積極的な参加を課題とし、複数名が出席の上、授業内容などに反映することが出来ている。令和5年度も積極的な研修参加が課題である。

(4) 学修成果

- ・就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、希望職種・希望施設への就職が実現した。又、資格取得率については全員卒業(保育士資格取得)をさせることが出来た。一方、併修生に対する社会福祉士資格取得率上昇は課題である。

(5) 学生支援

- ・職員による校舎入室時の体温や体調管理の確認を徹底してきた。登校前体温計測に加え、登校時における体温計測により健康状態の把握や学生とのコミュニケーションを行うことが出来た。については、令和4年度末まではこれらの対応を続けてきたが、令和5年度は学生による体温管理に変更する。但し、配属実習などにおいては、継続的に実習前より健康状態の把握を徹底する。
- ・学業成績不良者について学校生活や成績などで気になる点がある場合は直接指導を行う他、保護者にも定期的に連絡をとり、支援を行っている。今後も未成年に限らず、退学防止の為に保護者とともに学生支援を行うこととする。

(6) 教育環境

- ・年間予定の変更により、実習配属期間も変動したが、実習先の協力を得て効果的な実習（事前指導・巡回指導・事後指導を含む）を行うことが出来た。
- ・防災について法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。なお、避難経路を含め、実地での防災訓練の実施や研修を行うことが課題である。

(7) 学生の受け入れ募集

- ・ホームページの更新を行った。教育理念（トリプル資格取得・ソーシャルワーク保育士の養成）や目標の周知を始め、興味を引くような内容に適宜改良を進めることやSNS広報充実（学生の様子を適宜伝えていくこと）が引き続きの課題である。具体的には特待生制度の創設を予定する。
- ・高校卒以上の入学者には幼稚園教諭2種免許状を併せて取得できるコースを継続運営し、受講指導にあっている。については、併修による保育教諭としての就職の幅の広がりなど、ダブル資格取得のメリットを広報していくことが課題である。
- ・個別希望に応じ、オンライン説明を実施している。については、校舎案内などを上手く伝えることが出来ていない点が課題である。その為、今後は学校見学に繋げるなど継続的にフォローをしていくことが課題である。

(8) 社会貢献・地域貢献

- ・ハロウィンの時期、近隣の企業型保育所ならびに当学園提携施設の子ども達に向け、三密に留意しながら、子どもたちとの交流を行なうことが出来た。今後は年間計画によりイベントを共同開催し、広報活動にも繋げていくことが課題である。
- ・近隣中学校における出張授業などを行えていない。については、積極的に出張授業や出前講座などを行っていくことが課題である。
- ・両学年ともにボランティア活動を含め、日常生活においても対応できる「学生・生徒 24 時間共済」に加入し、課外活動支援に備えている。詳細についての周知や説明は継続課題である。
- ・大阪府の待機児童解消施策として行われている職業訓練「長期高度人材育成コース（保育士養成コース）」の訓練生 8 名（令和 3 年度生）・15 名（令和 4 年度生）を受け入れた。本科生と共に、学びの相乗効果が得られるようにクラス運営を実施している。

(9) 国際交流

- ・カンボジアからの私費留学生（3 名）が進級し、日本語能力向上のための日記指導を始め、日本語能力検定受験などの指導を実施してきた。但し、N1・N2 合格の実績を作ることは出来なかった。進路指導など丁寧に関わることは出来たが、他学科（日本語学科など）との交流や授業内容に関する学習会（予習・復習）などを実施出来なかった為、今後の検討課題としたい。